

わりき

理想は共感共生型『和力社会』
～関西には大きなポテンシャル～ — 三大都市圏意識調査 —

「日本社会のあり方や『公』に対する意識調査」
「地元に対する意識調査」
【調査報告書要旨】

2007年2月16日

財団法人関西社会経済研究所

〈調査協力〉 株式会社電通
株式会社博報堂

日本経済の成長が6年目に入り、特に厳しかった関西も回復基調が鮮明になっている。今回の景気回復は、グローバル化が進む中で好調な企業部門が牽引しており、個人部門は未だ回復途中であると言われている。

一方、自治体破産など官依存の仕組みの限界が明らかになる中で、将来の少子高齢化を踏まえた政策のあり方や改革の実行が期待されている。

現在の多くの議論は、政策担当者や専門家などどちらかと言えば供給者サイドからの情報発信であり、主役である生活者の意識に関する情報は十分とは言えない。

こうした認識の下、当研究所では、株式会社電通並びに株式会社博報堂の協力の下、「地元に対する意識」「日本社会のあり方や『公』に対する意識」について、関東・関西・中部の三大都市圏の生活者意識調査を実施した。

本調査は、次の2つの調査よりなる。

【A】日本社会のあり方や『公』に対する意識調査

日本社会の現状や今後のあり方、また、市場化時代の課題として「公助」「共助」のバランスのあり方に関するインターネット調査。

- 実施期間 2006年12月
- 調査対象 20代以上（20代、30代、40代、50代以上の各層各25%）
- サンプル数 1,500サンプル
 - 関西圏 500（男性250、女性250）
 - 関東圏 500（男性250、女性250）
 - 中部圏 500（男性250、女性250）

【B】地元に対する意識調査

三大都市圏の生活者意識や地元の景気動向に関するインターネット調査。
また、『次代の関西』を描くために関東圏／中部圏からみた関西に関する調査も実施。

※前回調査（2004年2月実施；未公表）と比較可能な項目については比較データ添付

- 実施期間 2006年12月
- 調査対象 20～40代の会社員及び自営業者
- サンプル数 1,200サンプル
 - 関西圏 600（男性400、女性200）
 - 関東圏 300（男性200、女性100）
 - 中部圏 300（男性200、女性100）

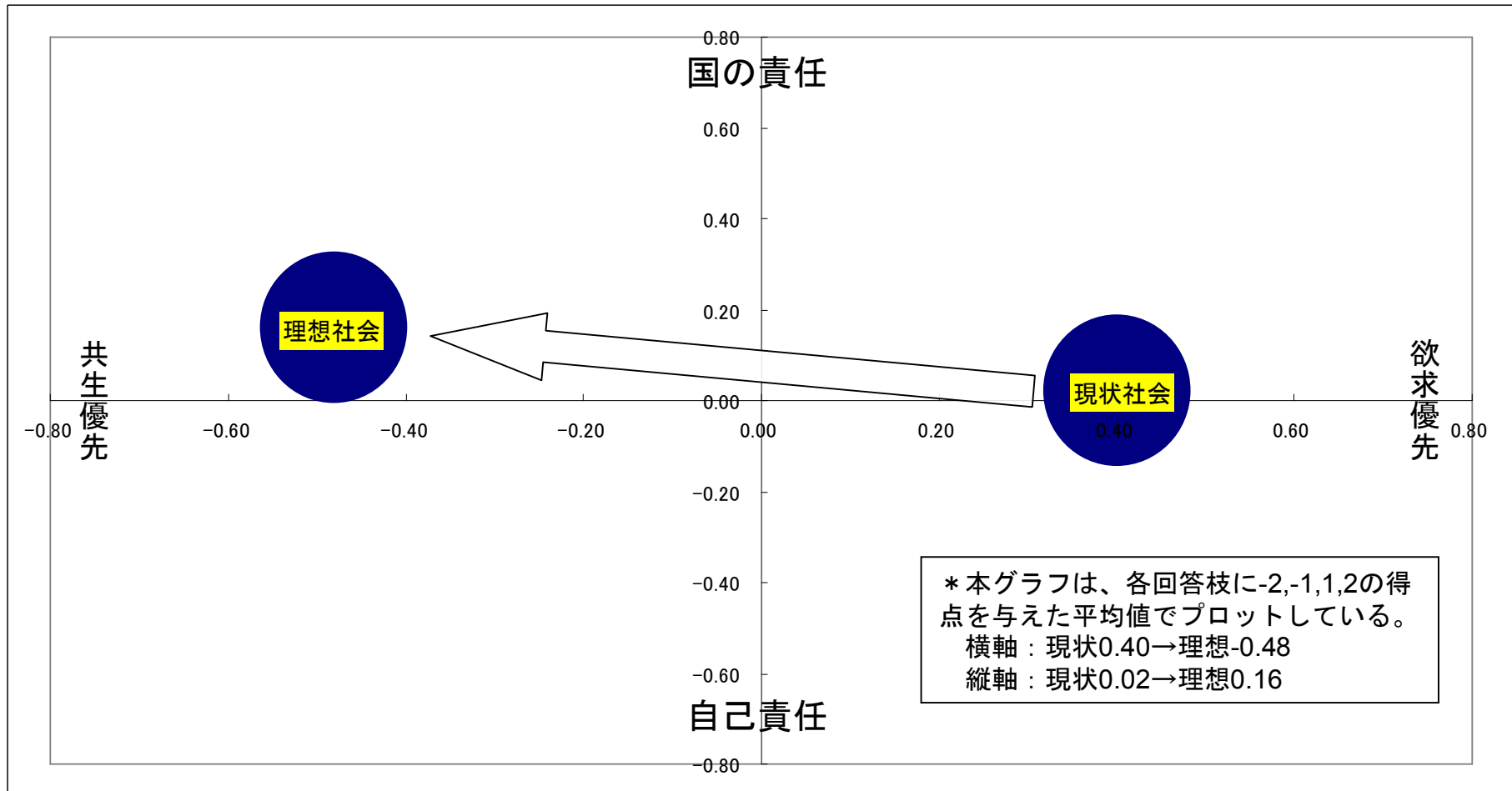
1. 【現状と理想】 — 今後の目指すべき方向は「共生」

○生活者は、現状を、自己欲求が優先され過ぎていると認識しており、
将来の目指すべき社会は、共生を優先すべきであるとの明確な方向が見られた。

<下図> 「個人の自己責任より国の責任重視」と「国の責任重視より個人の自己責任」の回答はほぼ拮抗している。

現状社会ではそれぞれ51.7%と48.3%、理想社会では56.9%と43.1%

「自己欲求より共生優先」との回答は、現在社会36.8%から理想社会70.3%へと33.5ポイントの大幅アップ。



2. 【生活者の志向】 — 社会に対する意識・態度により3タイプが見出される

- 日本社会のあり方や『公』に対する意識項目（29対）に対する回答に関して、因子分析及びクラスタリングを実施したところ、3クラスターが見出された。各クラスターにその特性を表徴する名称を付与した。
- 3クラスターへの支持の高さは「和力社会」「他力社会」「自力社会」の順。

自力社会

(構成比20.9%)

自己責任・自己利益を重視する“弱肉強食型”

- 社会保障が手薄になっても税金を安くするべきだ。
- 国がニートを救済する必要はない。
- 外交においては日本の主張を優先すべきだ。

他力社会

(構成比35.2%)

国からの指導や規則・マニュアルを重視する“管理重視型”

- 地域行政は国の指導・補助により行われるべきだ。
- 地域の独自性が少々失われても、生活の都市化を推進すべきだ。
- 会社や組織では、個人の裁量を多く認めるよりもマニュアルや規則で管理すべきだ。

和力社会

(構成比43.9%)

個性尊重と互いの協力・協調を重視する“共感共生型”

- 会社や組織では、個々人の責任を明確にし、その分個人に大きな裁量権を与えるべきだ。
- 地域の生活が少々不便でも、地域の独自性や文化の多様性を守るべきだ

3. 【各クラスターの特徴】 — 意識に関する質問項目（29対）のうち、各クラスターに特徴的な項目をピックアップ

自力社会

- 「社会保障を削減して税金を削減すべき」「ニートは救済の必要なし」「外交においては日本の主張を優先すべき」といった意見が優勢で、強いもののみが生き残るべしとする考え方が見受けられる。例えば、ヒルズ族に見られるような強烈的な上昇志向と顕示欲を持った人物像が想像される。
- また、拡充すべき公的サービスとして「防衛」を挙げる割合が高いなど、「タカ派」的な側面も見られる。
- ボリュームとしてはまだまだ少数で、2割程度（構成率20.9%）。

国・地域との関わり方	国がニートを救済する必要はない	「自力社会」 79.9
		「他力社会」 61.9
		「和力社会」 64.3
	社会保障が手薄になっても税金を安くすべき	「自力社会」 50.2
	「他力社会」 25.2	
	「和力社会」 24.6	
	高齢者の雇用は、企業の判断に任せるべき	「自力社会」 55.0
	「他力社会」 27.8	
	「和力社会」 31.3	
	少子化問題は、子育ての楽しさや家庭に対する個人の価値意識を変革することによって対処すべき	「自力社会」 55.0
	「他力社会」 21.2	
	「和力社会」 36.6	
国の外交政策	外交においては日本の主張を優先すべき	「自力社会」 68.7
		「他力社会」 36.7
		「和力社会」 45.1
	国際援助は、国益にかなう場合に限定すべき	「自力社会」 60.1
	「他力社会」 28.2	
	「和力社会」 27.5	
企業活動	外国人の雇用を制限し日本人の雇用を守るべき	「自力社会」 75.4
		「他力社会」 64.2
		「和力社会」 64.5

環境問題	環境の保護よりも、経済の発展を優先すべき	「自力社会」 49.2
		「他力社会」 6.3
		「和力社会」 0.2
	環境の保護よりも、生活の利便性を優先すべき	「自力社会」 58.1
	「他力社会」 10.6	
	「和力社会」 0.3	
	環境保護のためには個人や企業の意識を高めるべき	「自力社会」 59.4
	「他力社会」 19.9	
	「和力社会」 38.1	
家族・教育、その他	子供の教育の質の向上は、まずは親がしっかりやるべき	「自力社会」 81.2
		「他力社会」 47.5
		「和力社会」 73.0
	公立の小中学校においても、個人の能力に応じた教育を受けるべき	「自力社会」 65.8
	「他力社会」 45.5	
	「和力社会」 57.5	
	子供はある程度自由放任で育てるべき	「自力社会」 47.6
	「他力社会」 28.6	
	「和力社会」 41.1	
	車の通行が全くなければ赤信号でも渡って構わない	「自力社会」 55.0
	「他力社会」 40.2	
	「和力社会」 45.8	

3. 【各クラスターの特徴】 — 意識に関する質問項目（29対）のうち、各クラスターに特徴的な項目をピックアップ

他力社会

- 「地域行政は国の指導・援助により行われるべき」「納税者番号制度を導入すべき」「少子化問題は国の制度を整備することで解消を図るべき」というような、あらゆる側面で「公」の介入や支援を期待。勿論、手厚い年金や医療費補助を求める。マニュアルによる管理や画一的であることを好むなど、組織の歯車として働く一昔前の典型的サラリーマンタイプが連想される。
- 外交においては、何よりも「協調」を重要視する。弱肉強食型「自力社会」と対比すれば「ハト派」的とも言える。
- ボリューム的には3分の1程度（構成率35.2%）。

国・地域との関わり方	地域行政は国の指導・補助により行われるべき	「自力社会」	26.5
		「他力社会」	50.2
		「和力社会」	28.8
	地域の独自性が少々薄れても、生活の都市化を推進するべき	「自力社会」	23.6
		「他力社会」	30.5
	研究者の意欲を高めるため、先端技術・薬剤の新発見などは、知的財産権として保護すべき	「自力社会」	7.0
「他力社会」		69.7	
「和力社会」		54.0	
少子化問題は、子育て支援に関する法制度や税制を改革することによって対処すべき	「自力社会」	54.5	
	「他力社会」	78.8	
	「和力社会」	45.0	
行政手続の簡素化や納税の公平性を高めるために、納税者番号制度を導入すべき	「自力社会」	63.4	
	「他力社会」	67.4	
	「和力社会」	49.5	
外交においては他国との協調を優先すべき	「自力社会」	43.9	
	「他力社会」	63.3	
	「和力社会」	31.3	
各国・地域の固有の価値や伝統が損なわれても、世界全体が民主主義の方向に進むべき	「自力社会」	54.9	
	「他力社会」	58.3	
	「和力社会」	42.8	
企業活動・仕事	会社や組織では、個人の裁量を多く認めるよりもマニュアルや規則で管理するべき	「自力社会」	31.3
		「他力社会」	38.4
		「和力社会」	9.6
	会社は、最低限の社会的ルールを守ったうえで、会社利益の最大化を追求するべき	「自力社会」	50.5
		「他力社会」	62.3
		「和力社会」	25.5
より女性が活躍できる社会にするには、法制度を整備することから始めるべき	「自力社会」	18.5	
	「他力社会」	54.0	
	「和力社会」	20.8	

環境	環境保護のためには規則や罰則を強化すべき	「自力社会」	40.6
		「他力社会」	80.1
家族・教育、その他	自分の老後は子供が面倒をみるべき	「自力社会」	61.9
		「他力社会」	26.7
	子供の教育の質の向上は、まずは国がしっかりやるべき	「自力社会」	15.7
		「他力社会」	18.8
	公立の小中学校においては、全員が同じ内容の教育を受けるべき	「自力社会」	18.8
		「他力社会」	52.5
	できるだけ偏差値の高い大学を卒業するべき	「自力社会」	27.0
		「他力社会」	54.5
	子供は親の管理の下で育てるべき	「自力社会」	34.2
		「他力社会」	42.5
人に認められる人生を送りたい	「自力社会」	15.3	
	「他力社会」	27.3	
車の通行が全くななくても赤信号なら渡るべきではない	「自力社会」	3.3	
	「他力社会」	52.4	
		「自力社会」	71.4
		「和力社会」	58.9
		「自力社会」	15.3
		「他力社会」	35.2
		「和力社会」	5.9
		「自力社会」	45.0
		「他力社会」	59.8
		「和力社会」	54.2

3. 【各クラスターの特徴】 — 意識に関する質問項目（29対）のうち、各クラスターに特徴的な項目をピックアップ

和力社会

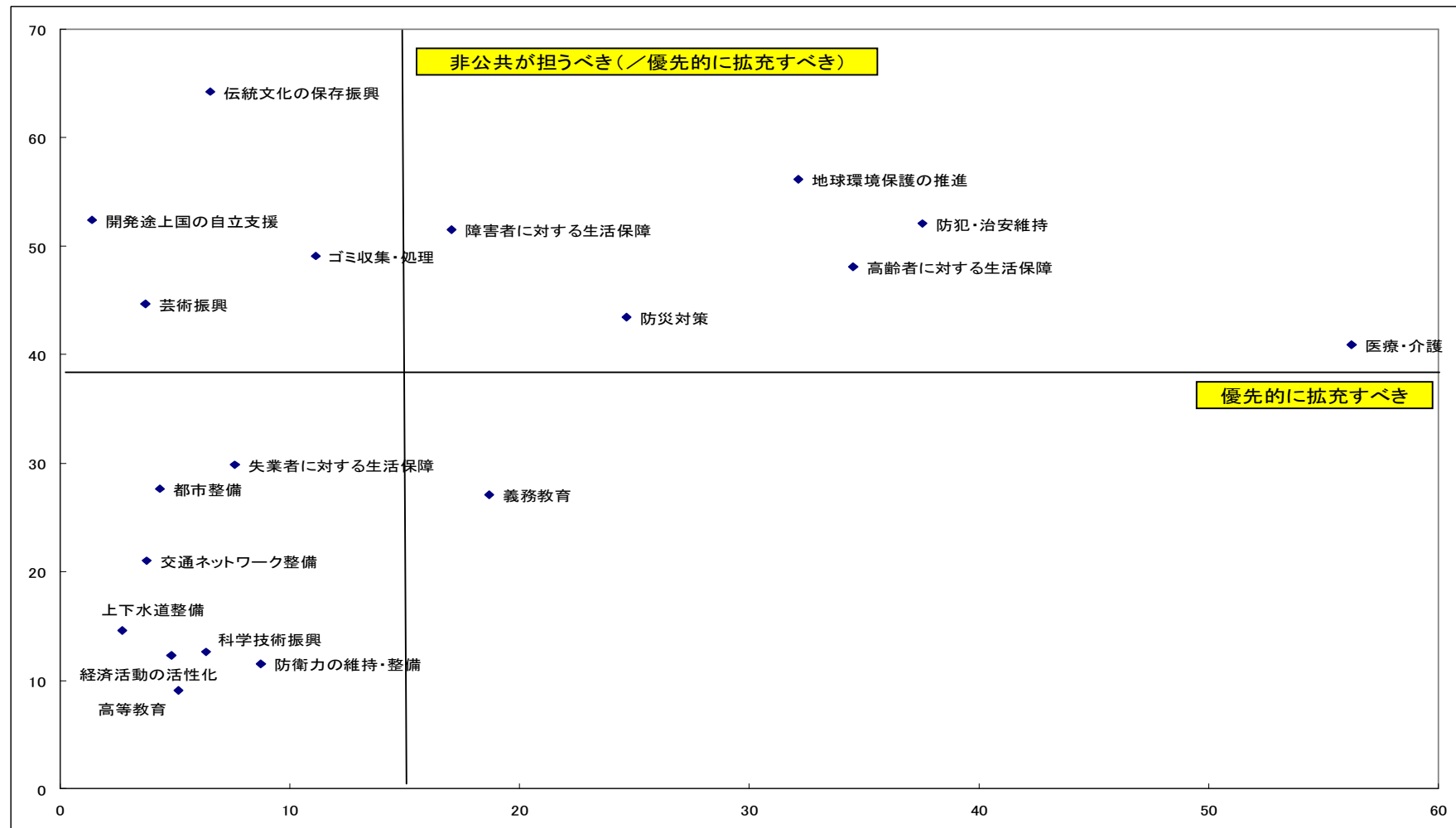
- 「独自性や多様性を大事にする」「収入よりも価値を見出せる仕事をしたい」に示されるように非常に「個」を重視。但し、弱肉強食型「自力社会」のような競争の主体としての「個」ではなく、連帯する「個」である。互いの独自性を認めつつ融合することで1+1>2の状態を作り出す。化学反応により、より価値の高い物質が生成されるのに似ている。
- 「環境保護が何よりも重要である」「企業は社会的責任を何よりも重視すべき」という意識が高いが、これは環境や社会という共通の土台を大事にする事の表れと思われる。
- 量としては全体の約44%を占める。

国・地域との関わり方	関西、中部などへの多極化を進めるべき	「自力社会」 89.5 「他力社会」 87.7 「和力社会」 96.8
	地域の生活が少々不便でも、地域の独自性や文化の多様性を守るべき	「自力社会」 76.4 「他力社会」 69.5 「和力社会」 93.0
	社会の活力がある程度損なわれても、格差のない社会を追求すべき	「自力社会」 42.5 「他力社会」 41.3 「和力社会」 58.3
	国による個人情報管理である納税者番号制度は導入すべきでない	「自力社会」 50.5 「他力社会」 32.6 「和力社会」 56.1
国の外交政策	日本の外交はアジアとの協調を優先すべき	「自力社会」 56.2 「他力社会」 52.5 「和力社会」 77.5
	世界全体の民主主義化が達成できなくても、国・地域の固有の価値や伝統を尊重すべき	「自力社会」 57.2 「他力社会」 41.7 「和力社会」 68.7
企業活動・仕事	会社や組織では、個々人の責任を明確にし、その分個人に大きな裁量権を与えるべき	「自力社会」 82.4 「他力社会」 61.6 「和力社会」 90.4
	会社は、最低限の利益を確保したうえで、社会的責任をより多く果たすべき	「自力社会」 49.5 「他力社会」 37.7 「和力社会」 74.5
	少々給与が低くても、自分の価値を見出せる仕事に就くべき	「自力社会」 74.4 「他力社会」 66.3 「和力社会」 93.5

環境問題	経済の発展よりも、環境の保護を優先すべき	「自力社会」 50.8 「他力社会」 93.8 「和力社会」 99.8
	生活の利便性よりも、環境の保護を優先すべき	「自力社会」 41.9 「他力社会」 89.4 「和力社会」 99.7
家族その他教育、	偏差値の高い大学に行くことよりも、やりたいと思った道に進むべき	「自力社会」 84.7 「他力社会」 72.7 「和力社会」 96.7
	自分が納得できる人生を送りたい	「自力社会」 84.7 「他力社会」 64.8 「和力社会」 94.1

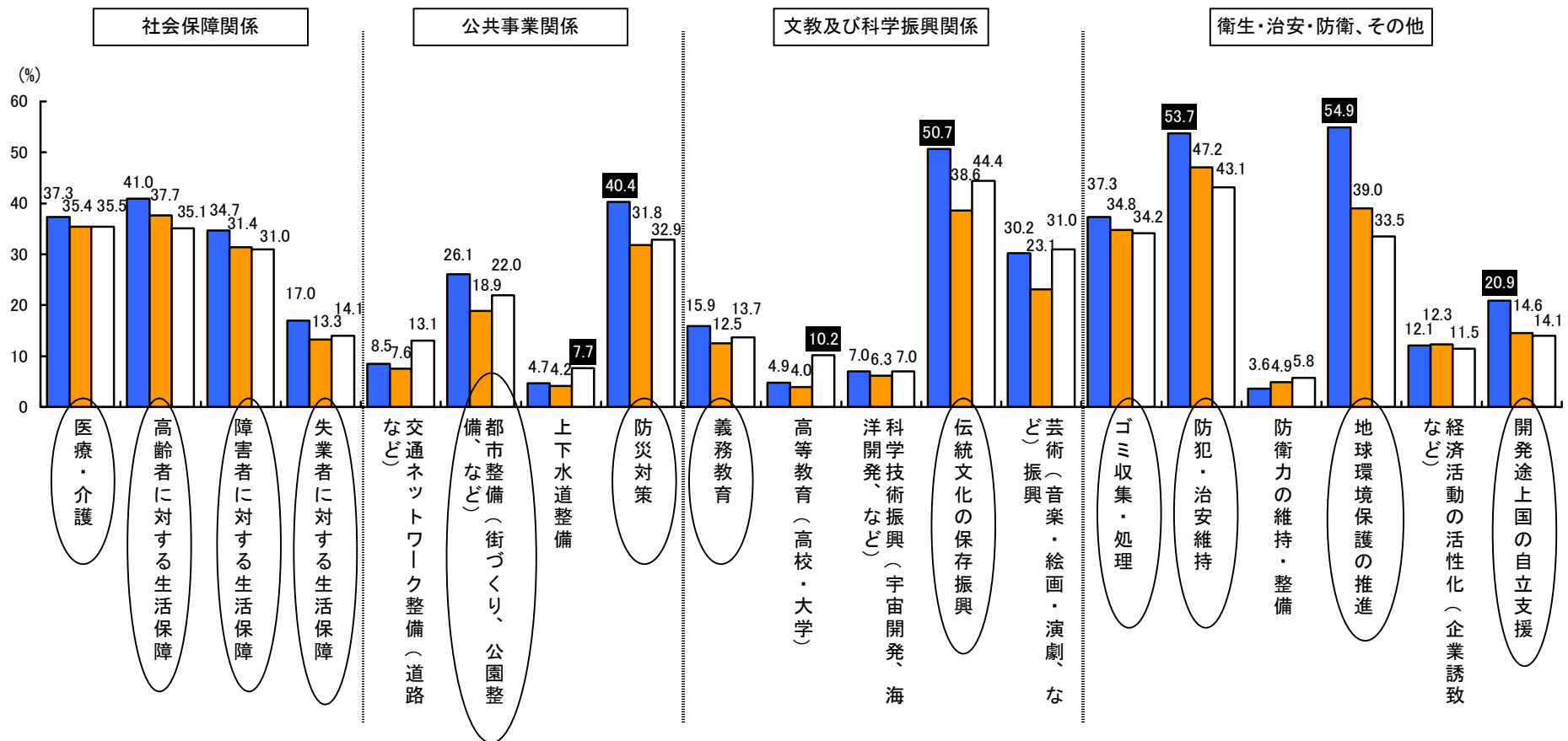
4. 【公的部門への期待】－「和力社会」志向の生活者は公的業務の拡充は非公共が担うべきとの意識が高い(1/2)

(1) <生活者全体の公的部門に対する期待> ①医療・介護、②防犯・治安維持、③高齢者に対する生活保障、④地球環境保護の推進、⑤防災対策が上位5位。



4. 【公的部門への期待】－「和力社会」志向の生活者は公的業務の拡充は非公共が担うべきとの意識が高い(2/2)

(2) 公的業務の拡充は非公共が担うべきとの回答は、19項目中12項目で「和力社会」でトップ。
 <参考> トップ項目数：「自力社会」6項目、「他力社会」1項目
 また、平均回答個数でも「和力社会」5.01個と最多。<参考>「自力社会」4.40個、「他力社会」4.18個

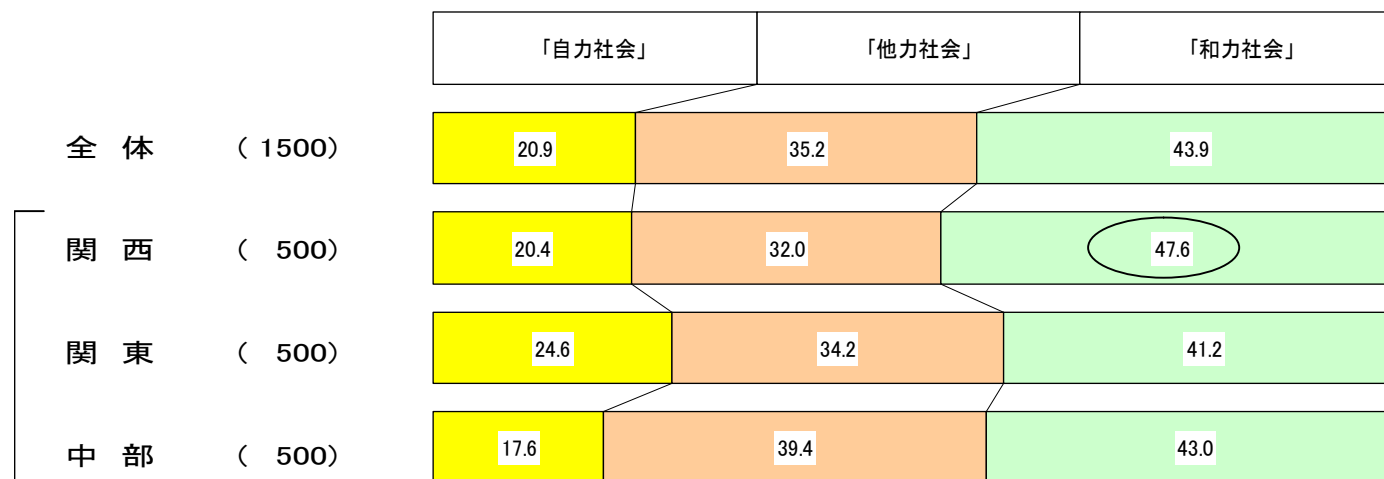


(左側) 和力社会 (中央) 他力社会 (右側) 自力社会

○ は「和力社会」がトップの項目 注)数値は回収数を100とした%

5. 【地域的な傾向】 — 三大都市圏ともに「和力社会」志向がトップ、
また、関西には「和力社会」志向の人が多い

(1) 三大都市圏ともに「和力社会」「他力社会」「自力社会」の順に支持されている。



(2) 三大都市圏を比較すると、関西には「和力社会」志向の人の割合が最も高い。

※関東には「自力社会」志向の人の割合が他地域より大きく、

中部は「他力社会」志向の人の割合が他地域大きい。

6. 【まとめ】

○生活者の理想は、共感共生型の「和力社会」。特に関西には「和力社会」を志向する人が多く、今後の日本社会のトップランナーともいえる。弱肉強食型の「自力社会」への支持は2割に過ぎなかった。

(1)生活者は、現在は自己欲求が優先され過ぎと考えており、今後目指すべき方向としては、

「共生」を挙げた。日本の社会の姿としては、個性尊重と協力・協調を重視する“共感共生型”の「和力社会」を最も支持している。

(2)一方で、国からの指導や規則・マニュアルを重視する旧来型の“管理重視型”である

「他力社会」は3分の1の生活者が支持する。新しい潮流とされる自己責任・自己利益を重視する“弱肉強食型”の「自力社会」は2割の支持しか得られなかった。

(3)「和力社会」志向の人々の特徴として、公的業務の拡充は、非公共で行うべきとの意識が強いことが挙げられる。

(4)「和力社会」志向は、三大都市圏のどの地域でも最も支持が高い、また、関西には

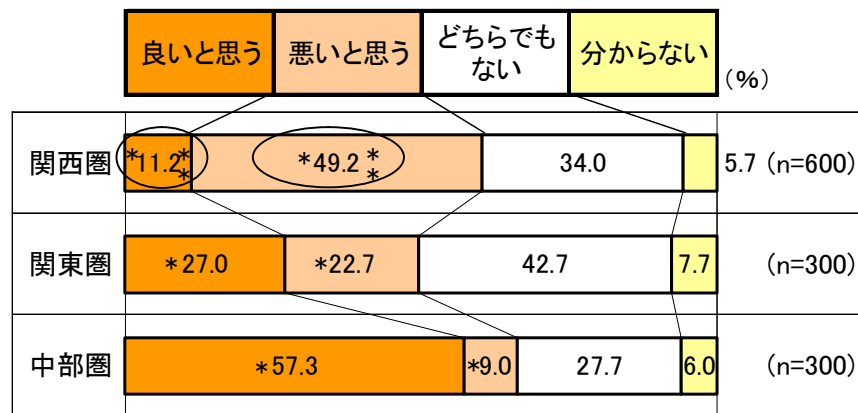
「和力社会」志向の人が多く、関西は今後の日本社会のトップランナーともいえる。

1. 【景気認識】－ 現在及び将来（10年後）の景気認識は依然、関東・中部より悪い(1/4)

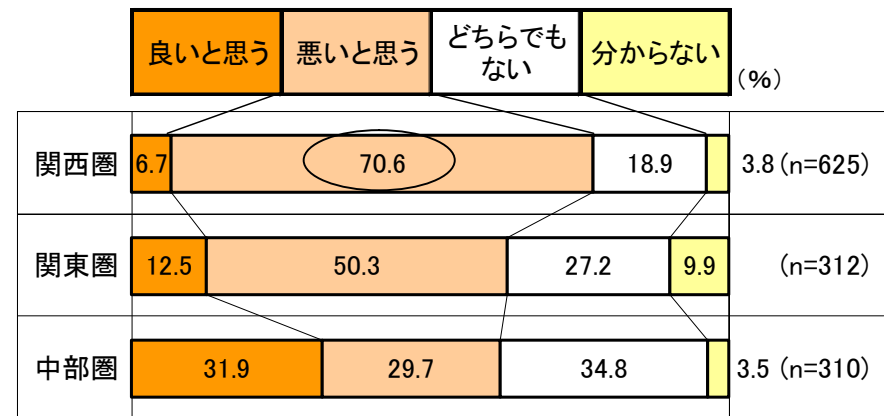
(1) <現在の景気>

- 現在の地元経済の評価は、「良いと思う」：関東27.0%、関西11.2%、中部57.3%、
「悪いと思う」：関東22.7%、関西49.2%、中部9.0%
- 前回（2004/2月）と比較すると、関西圏では、「悪いと思う」が21.4ポイント低下（前回70.6%⇒今回49.2%）し、「良いと思う」4.5ポイント上昇、「どちらでもない」15.1ポイント上昇。依然として「悪いと思う」が多いものの景気回復傾向が見られる。関東・中部はさらに景気回復を実感している。

【2006年12月調査】



【2004年2月調査】



注) 2006年12月調査图中的「*印」はカイ2乗検定上有意差がみられるもの

「左上」2004年2月調査との検定

「右上」関西と関東との検定、「右下」関西と中部の検定

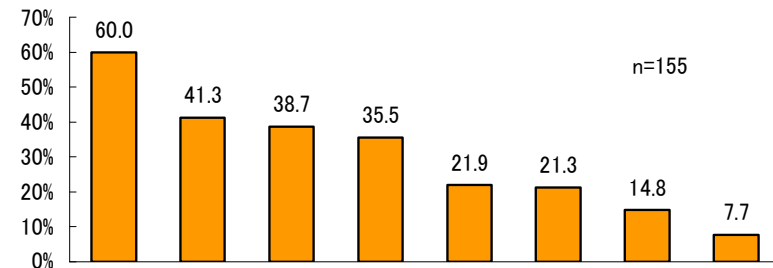
1. 【景気認識】－ 現在及び将来（10年後）の景気認識は依然、関東・中部より悪い(2/4)

(2) <10年後の景気> (左下図)

- 関西は「今と同じようなもの」が最も高く41.5%。「今より良くなっている」25.8%、「今より悪くなっている」23.2%とほぼ拮抗している。
- 中部圏では「今より良くなっている」が「今より悪くなっている」を約11ポイント上回るのに対し、関東は逆傾向（「今より悪くなっている」が約9ポイント上回る）。

<関西の10年後「今より良くなっている理由」> (右下図)

- ①大阪駅周辺などの大型再開発事業
- ②日本の景気
- ③梅田周辺の百貨店



	今より良くなっている	今より悪くなっている	今と同じようなもの	分からない	(%)
関西圏	25.8*	23.2	41.5	9.5	(n=600)
関東圏	*17.7	*27.0	44.7	10.7	(n=300)
中部圏	29.0	18.0	46.0	7.0	(n=300)

		い今より るよ 回良 答者 く な っ て	が大 進型 阪の 駅で 再周 い開 発な か事 ら業 で	な日 本の ての い景 気が らよ く	るの 梅 田周 や参 入が 百貨 店	と文 化西 うが の直 さづ れる り	元関 西だ の中 小企 業が	まの 新ポ ット しい 産業 がな らど	ら流 が活 発の なる 経済 が交	その 他	
関西圏	全体	155	60.0	41.3	38.7	35.5	21.9	21.3	14.8	7.7	
	性別	男性	107	57.9	42.1	30.8	33.6	25.2	20.6	17.8	6.5
	性別	女性	48	64.6	39.6	56.3	39.6	14.6	22.9	8.3	10.4
	年代別	20代	44	63.6	34.1	47.7	34.1	20.5	13.6	11.4	2.3
	年代別	30代	86	64.0	38.4	36.0	39.5	19.8	25.6	17.4	11.6
年代別	40代	25	40.0	64.0	32.0	24.0	32.0	20.0	12.0	4.0	

※ は全体より+10ポイント以上、 は全体より+5ポイント以上

1. 【景気認識】－ 現在及び将来（10年後）の景気認識は依然、関東・中部より悪い(3/4)

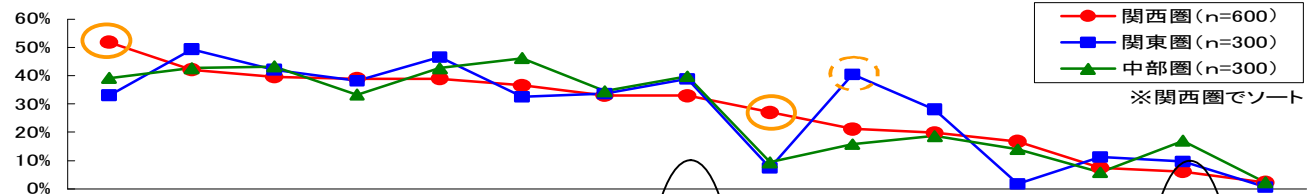
(3) 関西は、景気認識が「生活の幸福度」の理由に影響しているとみられる。

- 生活の幸福度は、三拠点とも大きな差はない（僅差ながら関西はトップ）ものの、関西は、他地域と比較すると、幸福だと思う理由では「仕事環境の良さ」や「地域経済活動が活発」最下位であり、幸福と思わない理由では、「仕事環境が良くない」と「地域経済活動が活発ではない」でトップとなる。

生活の幸福度
 関西59.8%
 関東59.4%
 中部57.0%

「幸福だと思う」理由

「地元への愛着」
 「人間関係」
 「歴史や文化」
 「物価が安い」
 の4項目で
 他地域比トップ

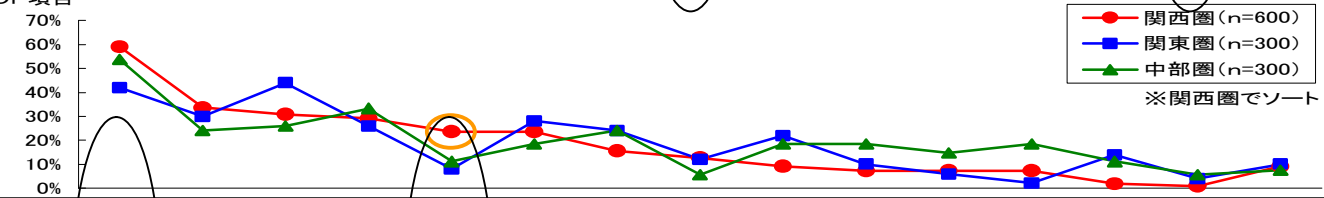


	幸福だと思う 回答者	地元への愛着が持てるから	施設や店が充実しているから	ショッピングなどの間が持てるから	趣味など自分がやりたいことをやる時間があるから	人間関係がよいから	家族との時間が充実しているから	住環境がよいから	通勤の環境がよいから	仕事環境がよいから	地元の歴史や文化が好きだから	音楽や映画・観劇のイベント施設が充実しているから	余暇・レジャーの環境が整っているから	物価が安いから	子供の教育環境が整っているから	活発だから	地域の経済活動が	その他
関西圏	359	51.8 *	42.1	39.6	39.0	39.0	36.5	33.1	32.9	27.0 *	21.2 *	19.8	16.7 *	7.5	6.1 *	2.2		
関東圏	178	33.1	49.4	42.1	38.2	46.6	32.6	33.7	38.8	7.3	40.4	28.1	1.7	11.2	9.6	0.6		
中部圏	171	39.2	42.7	43.3	33.3	42.7	46.2	34.5	39.8	9.4	15.8	18.7	14.0	5.8	17.0	2.3		

※ 〇 はTOP項目

「幸福だと思わない」理由

「仕事環境」
 「人間関係」
 「地域経済活動」
 「子供の教育環境」
 の4項目で
 他地域比トップ



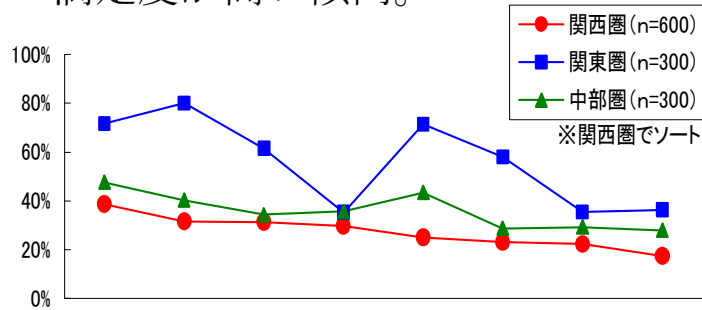
	幸福だと思わない 回答者	仕事環境がよくないから	人間関係がよくないから	物価が高いから	趣味など自分がやりたいことをやる時間がないから	地域経済活動が活発ではないから	住環境がよくないから	通勤の環境がよくないから	子供の教育環境が整っていないから	家族との時間が充実していないから	音楽や映画・観劇のイベント施設が充実していないから	余暇・レジャーの環境が整っていないから	施設や店が充実していないから	ショッピングなどの余暇・レジャーの環境が整っていないから	音楽や映画・観劇のイベント施設が充実していないから	地元への愛着が持てないから	好きではないから	地元の歴史や文化が好きではないから	その他
関西圏	110	59.1	33.6	30.9	29.1	23.6 *	23.6	15.5	12.7	9.1	7.3	7.3	7.3	1.8 *	0.9	9.1			
関東圏	50	42.0	30.0	44.0	26.0	8.0	28.0	24.0	12.0	22.0	10.0	6.0	2.0	14.0	4.0	10.0			
中部圏	54	53.7	24.1	25.9	33.3	11.1	18.5	24.1	5.6	18.5	18.5	14.8	18.5	11.1	5.6	7.4			

※ 〇 はTOP項目

1. 【景気認識】－ 現在及び将来（10年後）の景気認識は依然、関東・中部より悪い(4/4)

(4) 関西は、景気認識が「地元企業への満足度」に影響しているとみられる（下図）。

- 関西は地元企業への満足度は三拠点中すべての項目で最下位。
- 関西は前回調査と比較して、「やりがいのある機会」「転職先企業数」「給与水準」で若干ながらも増加しており、景気回復意識の改善傾向が見られるものの、「最新ビジネス情報」で約5ポイント減少。
- 三拠点とも年齢が低くなるにつれ満足度は高い傾向。
- 性別では、関東・関西は男性より女性、中部は女性より男性の満足度が高い傾向。



TOP2 満足+ どちらか という満足	サンプル数	仕事をする 機会の多さ	やりがいの ある機会	最新のビジ ネスインフ ォर्मの速さ	最新のビジ ネスインフ ォームの速さ	人材の質、 層の厚さ	生活に使う 除く所得の 水準	転職先の多 さ	給与水準	アジア企業 との交流の 度合い	海外企業 との交流の 度合い
関西圏	600	38.7*	31.6*	31.3*	29.8	25.1*	23.1*	22.3*	17.4*		
関東圏	300	71.7	80.0	61.6	35.3	71.4	58.0	35.4	36.4		
中部圏	300	47.7	40.3	34.4	35.7	43.4	28.7	29.3	28.0		

※ はTOP項目

2006年12月調査	サンプル数	やりがいのある仕事をする機会の多さ	最新のビジネス情報を得られるスピードの速さ		人材の質、層の厚さ		(家賃を除く)生活に使える所得の水準		転職先の企業数や種類の多さ		給与水準		アジア企業との交流の度合い		アジア以外の海外企業との交流の度合い				
			満足している	満足していない	満足している	満足していない	満足している	満足していない	満足している	満足していない	満足している	満足していない	満足している	満足していない	満足している	満足していない			
			600	38.7	56.6	31.6	60.8	31.3	60.7	29.8	68.2	25.1	66.1	23.1	74.2	22.3	55.2	17.4	61.3
関西圏	全体	600	38.7	56.6	31.6	60.8	31.3	60.7	29.8	68.2	25.1	66.1	23.1	74.2	22.3	55.2	17.4	61.3	
	性別	男性	400	36.6	59.3	28.3	66.0	30.8	61.1	28.3	70.1	21.3	68.3	22.1	75.5	21.0	58.3	16.3	64.0
	女性	200	43.0	51.5	38.5	50.5	32.5	60.0	33.0	64.5	33.0	62.0	25.5	71.5	25.0	49.0	19.5	56.0	
	年代別	20代	170	45.8	47.7	40.6	50.0	38.8	50.0	34.7	61.8	38.2	50.6	33.5	61.8	23.5	49.4	20.0	54.1
30代	322	37.3	58.7	29.2	63.1	31.3	61.5	29.8	68.4	23.0	69.2	21.1	76.7	20.8	56.2	16.4	61.8		
40代	108	31.5	64.8	25.0	71.3	19.4	75.0	22.2	77.8	11.1	81.5	13.0	86.1	25.0	61.1	15.8	71.3		
関東圏	全体	300	71.7	20.0	80.0	12.0	61.6	23.7	35.3	33.0	71.4	16.3	58.0	26.7	35.4	31.0	36.4	32.3	
	性別	男性	200	68.0	23.5	77.0	14.5	58.0	27.5	31.0	36.5	67.0	20.0	52.5	32.0	32.5	33.5	32.5	35.5
	女性	100	79.0	13.0	86.0	7.0	69.0	16.0	44.0	26.0	80.0	9.0	69.0	16.0	41.0	26.0	44.0	26.0	
	年代別	20代	85	77.6	14.1	82.3	11.8	70.6	15.3	34.2	34.1	71.7	16.5	63.5	27.1	44.7	28.2	42.4	30.6
30代	161	70.2	20.5	80.7	9.9	59.0	24.8	37.2	31.7	77.0	12.4	57.2	24.2	32.3	30.4	35.5	31.1		
40代	54	66.6	27.8	74.0	18.5	55.6	33.3	31.5	35.2	53.7	27.8	51.8	33.3	29.6	37.0	29.7	38.9		
中部圏	全体	300	47.7	47.0	40.3	50.7	34.4	55.0	35.7	61.0	43.4	44.7	28.7	67.7	29.3	47.0	28.0	48.3	
	性別	男性	200	48.0	47.5	41.0	51.0	37.0	54.5	34.5	63.0	46.0	42.5	28.0	69.0	33.0	49.0	32.5	49.0
	女性	100	47.0	46.0	39.0	50.0	29.0	56.0	38.0	57.0	38.0	49.0	30.0	65.0	22.0	43.0	19.0	47.0	
	年代別	20代	85	57.7	38.9	47.1	45.9	41.2	47.1	49.5	47.1	51.7	37.7	48.2	49.4	31.7	42.3	29.4	44.7
30代	161	44.1	49.1	39.7	49.7	33.6	55.3	33.6	63.4	41.6	46.0	21.8	73.9	31.7	42.8	29.2	46.0		
40代	54	42.6	53.7	31.5	61.1	25.9	66.7	20.4	75.9	35.2	51.9	18.5	77.8	18.5	66.7	22.2	61.1		
2004年2月調査	関西圏	625	36.4	56.5	36.3	54.4	31.2	60.3	*	*	21.6	68.6	20.1	75.7	*	*	16.1	61.0	
	関東圏	312	72.1	21.8	79.2	12.5	60.2	29.8	*	*	71.1	16.1	53.5	43.0	*	*	52.6	24.6	
	中部圏	310	48.1	44.5	33.9	52.9	32.5	54.6	*	*	34.2	53.3	30.3	66.4	*	*	25.5	52.2	

※ は全体より+10ポイント以上、 は全体より+5ポイント以上

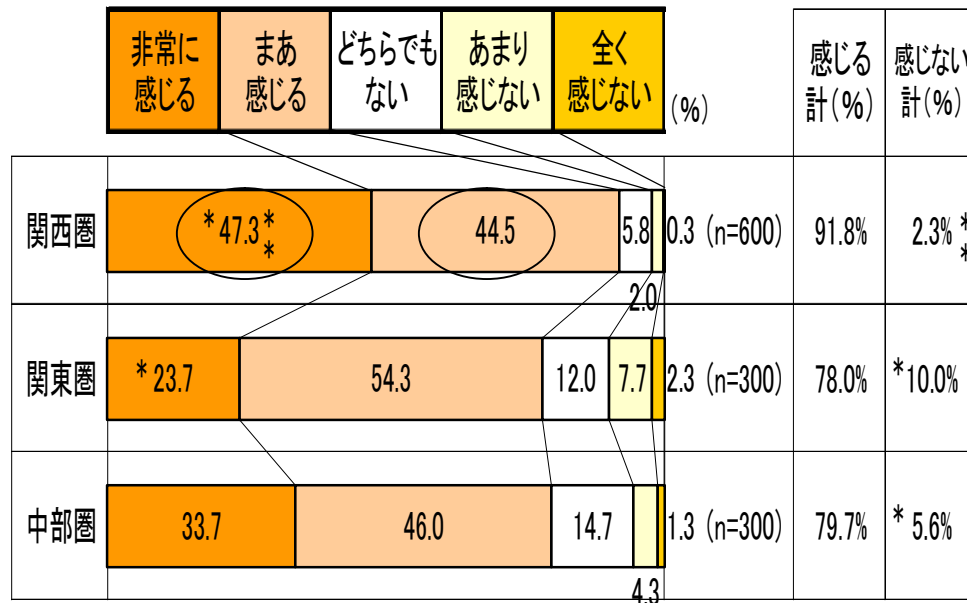
※(2004年2月調査) * は未聴取

2. 【注目すべき関西人の特質】 (1/3)

(1) <地元のへの愛着度> - 関西人は地元への愛着度が高い(三地域トップ)

- 関西は年齢別の差が小さい
- 関東・関西は女性の方が愛着度が高いが、中部では男性の方が高い。

<参考>関西はこの愛着度の高さが「生活の幸福度」の源泉の一つとなっている (P14参照)。



		サンプル数	感じるに非常	まあ感じる	どちらでもない	あまり感じない	全く感じない	感じる計	感じない計		
2006年12月調査	関西圏	全体	600	47.3	44.5	5.8	2.0	0.3	91.8	2.3	
		性別	男性	400	46.3	44.5	6.0	2.8	0.5	90.8	3.3
		性別	女性	200	49.5	44.5	5.5	0.5	-	94.0	0.5
		年代別	20代	170	45.3	48.2	5.3	0.6	0.6	93.5	1.2
		年代別	30代	322	48.8	41.6	6.5	2.8	0.3	90.4	3.1
	年代別	40代	108	46.3	47.2	4.6	1.9	-	93.5	1.9	
	関東圏	全体	300	23.7	54.3	12.0	7.7	2.3	78.0	10.0	
		性別	男性	200	22.0	53.0	13.5	8.0	3.5	75.0	11.5
		性別	女性	100	27.0	57.0	9.0	7.0	-	84.0	7.0
		年代別	20代	85	17.6	62.4	9.4	8.2	2.4	80.0	10.6
		年代別	30代	161	26.7	51.6	13.0	6.8	1.9	78.3	8.7
	年代別	40代	54	24.1	50.0	13.0	9.3	3.7	74.1	13.0	
中部圏	全体	300	33.7	46.0	14.7	4.3	1.3	79.7	5.6		
	性別	男性	200	36.0	44.0	16.0	3.0	1.0	80.0	4.0	
	性別	女性	100	29.0	50.0	12.0	7.0	2.0	79.0	9.0	
	年代別	20代	85	38.8	47.1	9.4	4.7	-	85.9	4.7	
	年代別	30代	161	32.3	46.0	16.1	4.3	1.2	78.3	5.5	
年代別	40代	54	29.6	44.4	18.5	3.7	3.7	74.0	7.4		
2004年2月調査	関西圏	625	58.2	37.0	2.7	1.4	0.6	95.2	2.0		
	関東圏	312	44.2	44.6	7.4	2.6	1.3	88.8	3.9		
	中部圏	310	36.1	55.5	6.1	1.9	0.3	91.6	2.2		

※ は全体より+10ポイント以上、 は全体より+5ポイント以上

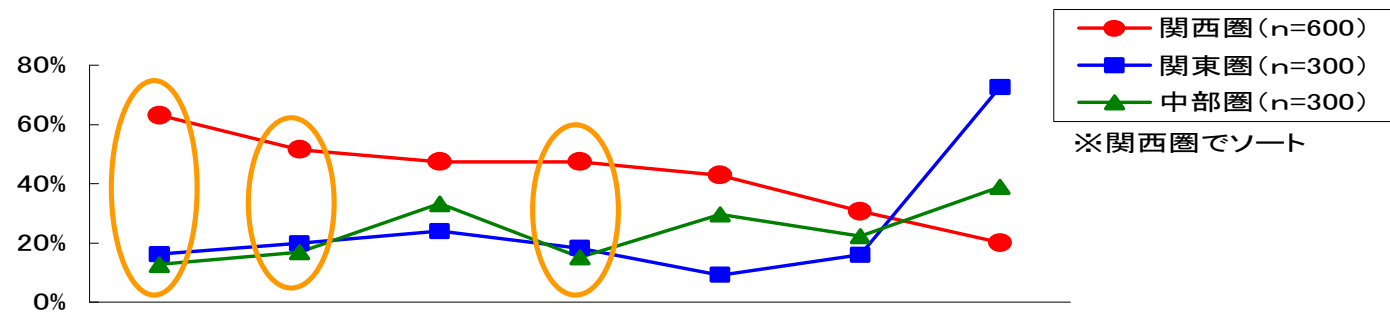
2. 【注目すべき関西人の特質】 (2/3)

(2) <生活者の協調資質> — 関西人は総じて協調性資質に富んでいる

○ 7項目全てにおいて、他地域との差は大きい。

○ 共存共栄型「和力社会」では、関西人の協調資質の高さが活かされる。

【地元生活者の協調資質】



TOP2 (非常に+まあ)	サンプル数	知らない人とも仲良くなる	人と話し合ったのが好きである	人と協力して物事を進めるのが好きである	他地域から来た人とでもすぐに打ち解けられる	地域住民の団結力	地域の自治会やPTA・スポーツクラブなどのグループ活動に積極的に参加する	人と距離をおいて付き合う人が多い
関西圏	600	63.2 **	51.6 **	47.5 **	47.5 **	43.0 **	30.7 **	20.2 **
関東圏	300	16.3	20.0	24.0	18.3	9.3	16.0	72.6
中部圏	300	12.7	17.0	33.3	15.3	29.7	22.3	39.0

※ はTOP項目

2. 【注目すべき関西人の特質】 (3/3)

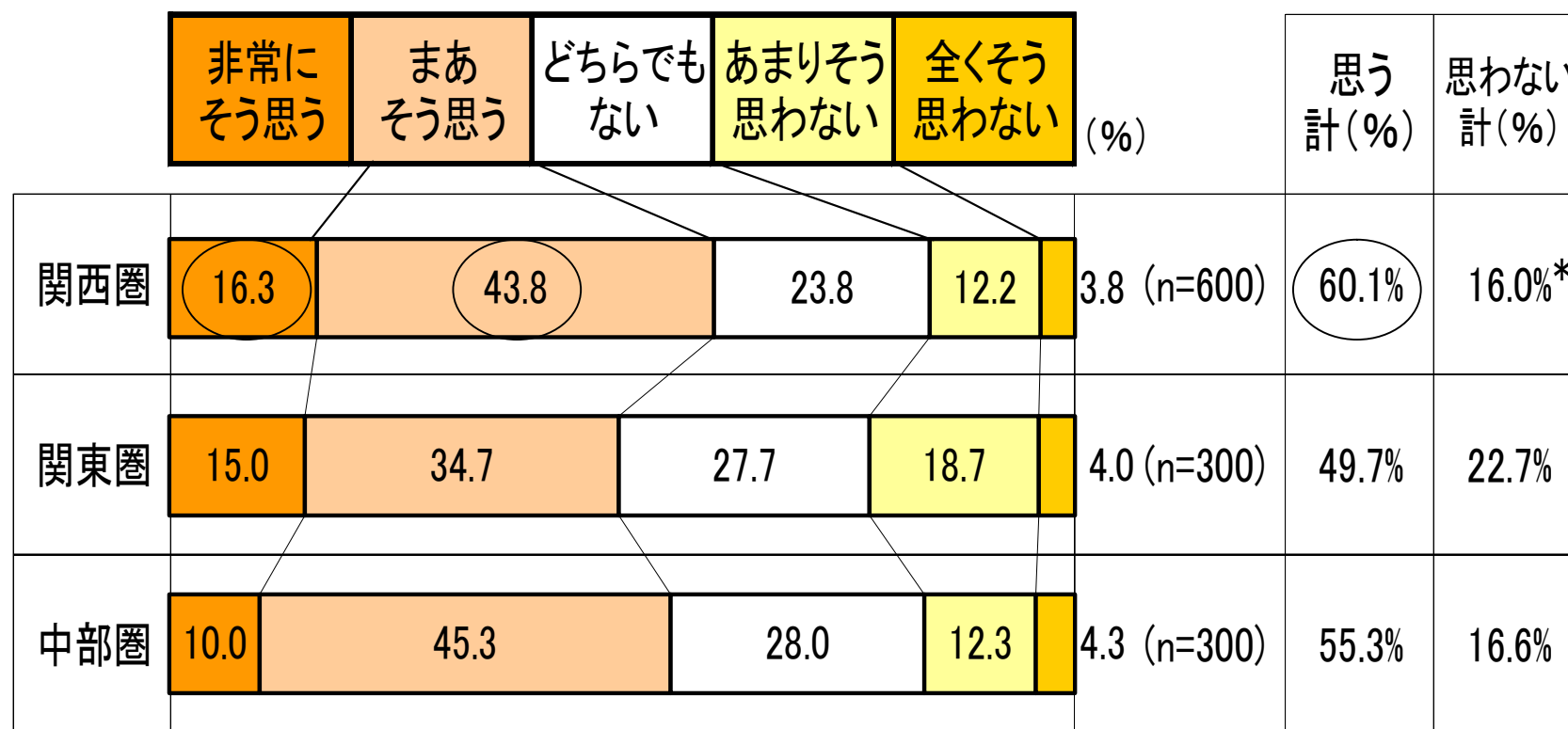
(3) <地元貢献意識> — 関西人は地元経済への貢献意識が高い

○ 関西は、自分の仕事を通じて、地元の経済を良くしたいと思う人が多い。

(右下図；関西60.1%、関東49.7%、中部55.3%)

【地元経済に対する考え方】

自分の仕事を通じて、地元の経済を良くしたいと思う

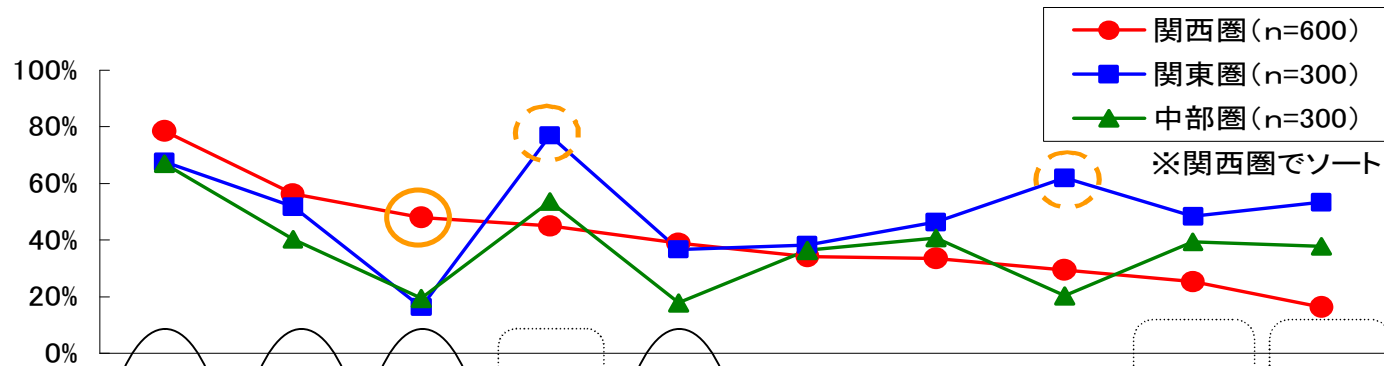


3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）（1/7）

(1) <関西人の地元意識>

関西人は関西のホスピタリティー（生活環境・住民同士の交流）に高い評価

- 関西は「生活の場として魅力的」「余暇を過ごす場として魅力的」「地域住民が活発に交流している」「他地域圏の文化・考え方に寛容」の4項目は三拠点中トップ。
- 「仕事をする場として魅力的」や「アジア企業との交流」「アジア以外の海外企業との交流」は最下位。



TOP2 (非常に+まあ)	サンプル数	だる	的地	て民	だる	の地	いと	機	いと	力を	交	活
		る場として魅力的	地元の生活力を過	民が活発に交流し	る場として魅力的	文化・考え方に寛容	元以外で仕事した	会さえあれば地	元以外で生活した	をする場として魅	流している	発に交流している
関西圏	600	78.6	56.3 *	48.0 *	45.0 *	38.8 *	34.2	33.5 *	29.5 **	25.3 **	16.3 **	
関東圏	300	67.6	51.7	16.3	77.0	36.7	38.3	46.3	62.0	48.4	53.4	
中部圏	300	67.0	40.3	19.4	53.7	17.7	36.3	40.6	20.3	39.3	37.7	

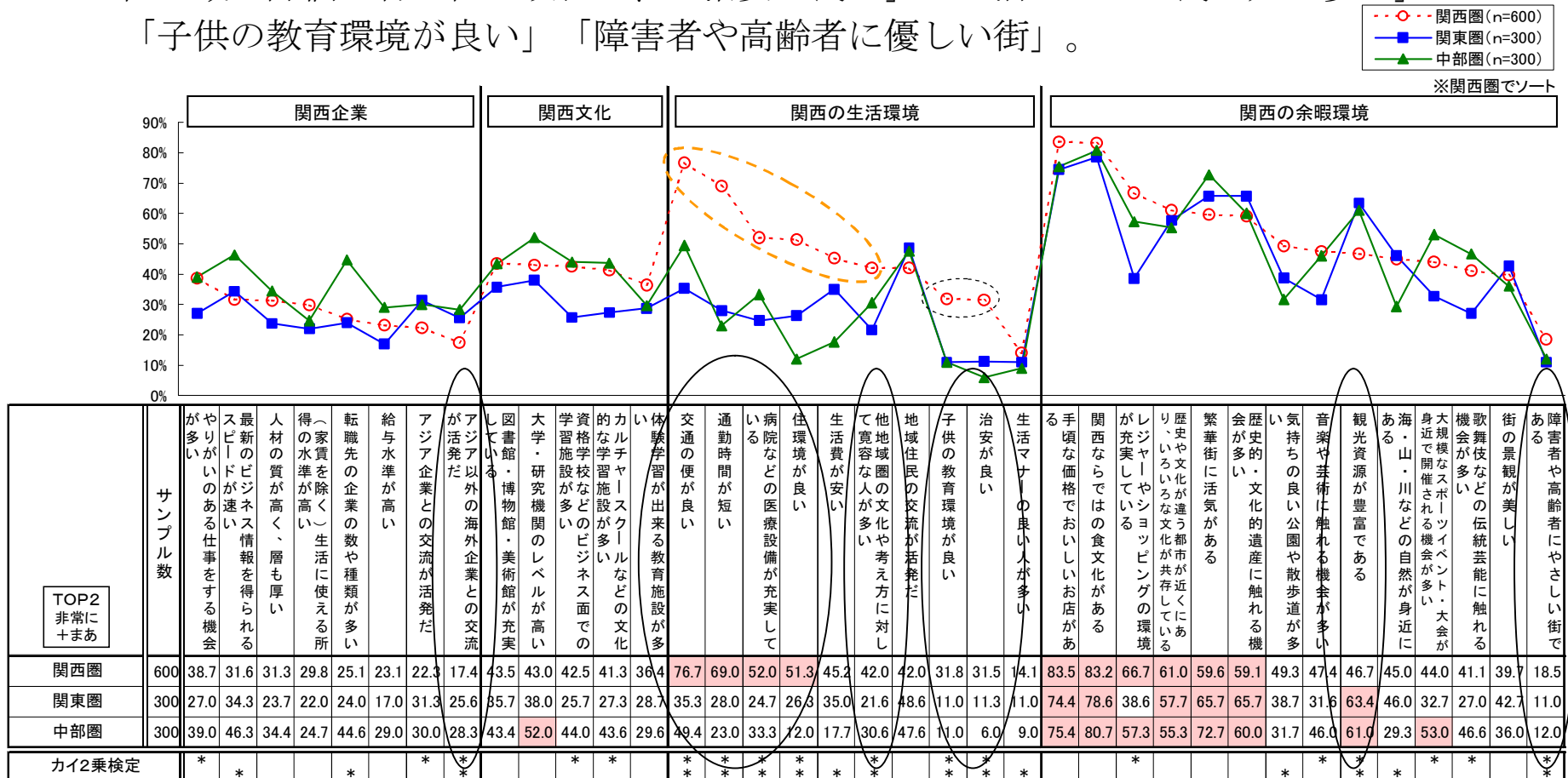
※ はTOP項目

3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）(2/7)

(2) 他地域から見た関西のイメージ

○ギャップが大きいのは生活環境面。他では「アジア以外の海外企業の交流」「観光資源」「障害者や高齢者にやさしい街」もギャップが見られる。

○他地域の評価が特に低い項目は、「治安が良い」「生活マナーの良い人が多い」「子供の教育環境が良い」「障害者や高齢者に優しい街」。



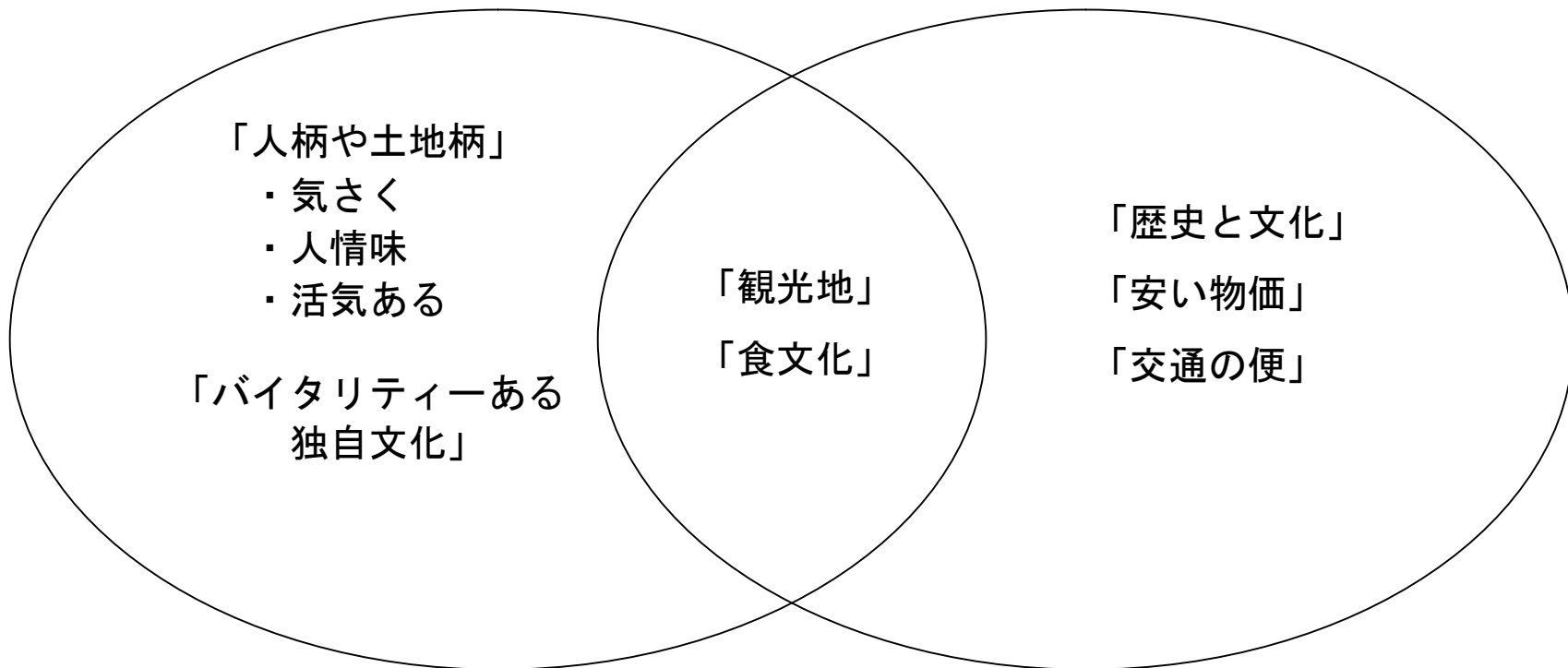
※ は50%以上
 ※カイ2乗検定は、2006年12月調査エリア別の検定（以下同様）
 ※関西圏は、「TOP2=満足計」（上）関西圏と関東圏
 ※関東圏・中部圏は、「TOP2=そう思う計」（下）関西圏と中部圏

3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）(3/7)

(3) 関東・中部からみた関西の“強み”（良い所）

関東からみた関西の強み

中部からから関西の強み

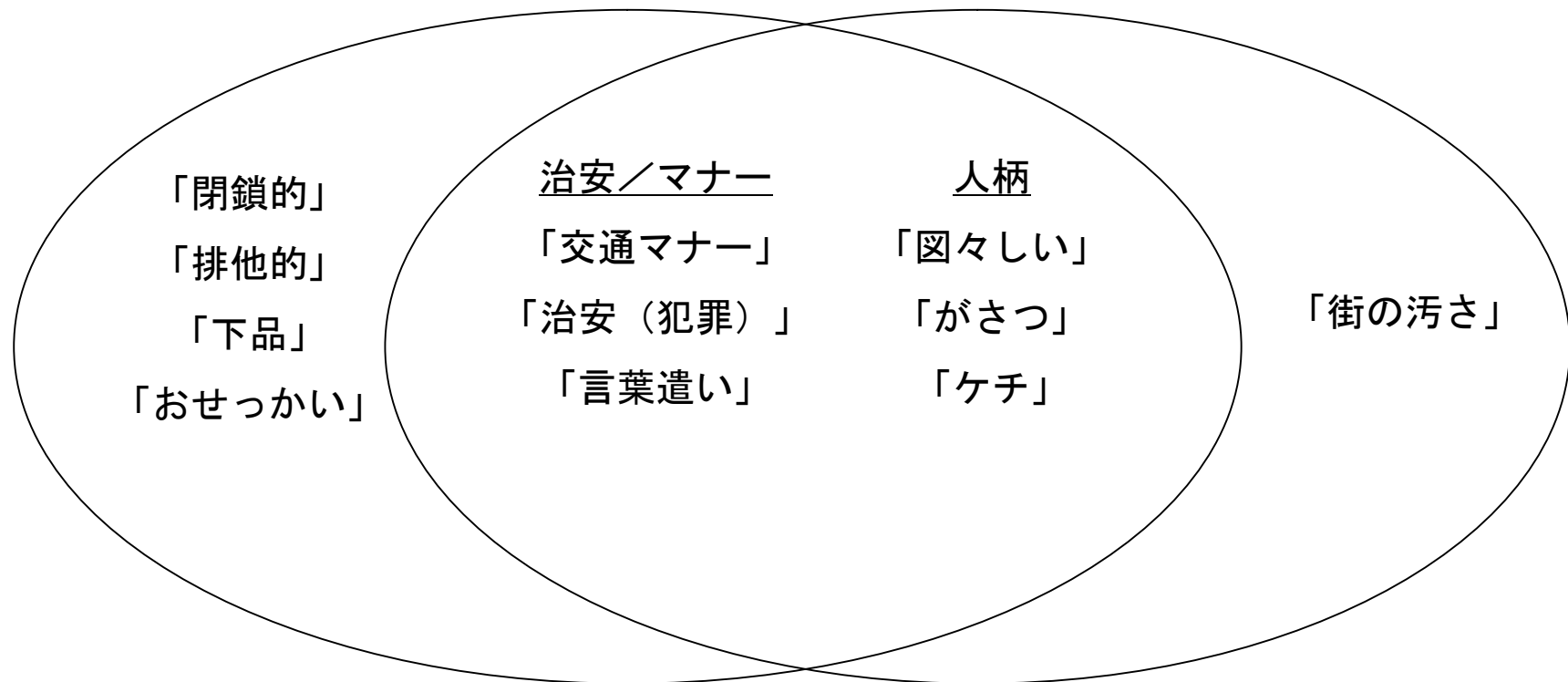


3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）（4/7）

（4）関東・中部からみた関西の“弱み”（悪い所）

関東からみた関西の弱み

中部からから関西の弱み



3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）(5/7)

(5) 関東・中部からみた関西が元気になるために期待すること

関東からみた関西への期待

生活者に対して
「観光地の活性化」
「歴史を大切に」
「地域交流」
企業に対して
「企業進出」
「景気回復」

中部から見た関西の期待

生活者に対して
「中部圏との地域交流」
企業に対して
「中小企業の独自技術」
「関西企業の活性化」
政治・自治体に対して
「経済の活性化」

生活者に対して
「食文化の拡大」
「治安やマナーの
向上」

3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）(6/7)

(6) 関東・中部の女性・若年層の関西への評価は総じて高い(その1)。

一方で40代の評価は低い。

(下表及び次ページ表の多くの項目で女性・若年層の評価は高い)

『関西』に対するイメージ(その1)

		サンプル数	関西企業														関西文化													
			やりがいのある仕事をする機会が多い		最新のビジネス情報を得られるスピードが速い		人材の質が高く、層も厚い		(家賃を除く)生活に使える所得の水準が高い		転職先の企業の数や種類が多い		給与水準が高い		アジア企業との交流が活発だ		アジア以外の海外企業との交流が活発だ		図書館・博物館・美術館が充実している		大学・研究機関のレベルが高い		資格学校などのビジネス面での学習施設が多い		カルチャースクールなどの文化的な学習施設が多い		体験学習が出来る教育施設が多い			
			そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計	そう思う計	いそう思う計		
2006年12月調査	関東圏	全体	300	32.0	19.3	31.0	20.3	27.3	17.7	21.0	21.0	28.0	19.4	17.3	25.3	24.4	18.3	20.3	19.3	35.6	13.7	34.7	13.0	25.4	15.0	25.4	15.7	22.4	15.4	
		性別	男性	200	29.5	20.5	27.5	21.5	24.5	19.0	17.0	23.0	25.0	20.5	14.5	26.5	23.5	17.0	19.0	17.5	30.0	16.5	32.5	15.5	22.0	15.5	19.5	18.0	18.5	16.5
		性別	女性	100	37.0	17.0	38.0	18.0	33.0	15.0	29.0	17.0	34.0	17.0	23.0	23.0	26.0	21.0	23.0	23.0	47.0	8.0	39.0	8.0	32.0	14.0	37.0	11.0	30.0	13.0
		年代別	20代	85	40.0	15.3	34.1	16.5	34.1	14.1	24.7	16.5	30.6	20.0	22.4	16.5	27.1	16.5	24.7	17.7	38.9	10.6	36.5	7.1	30.6	14.1	30.6	11.8	27.1	15.3
		年代別	30代	161	31.1	20.5	31.0	19.3	24.8	15.5	19.9	21.1	27.9	16.1	14.9	28.0	21.1	18.0	18.6	19.2	34.2	10.6	34.8	11.8	25.5	11.8	25.5	12.4	21.7	12.4
		年代別	40代	54	22.2	22.2	25.9	29.7	24.1	29.7	18.5	27.8	24.1	27.8	16.7	31.5	29.7	22.2	18.5	22.3	35.2	27.8	31.5	26.0	16.7	25.9	16.7	31.5	16.7	24.1
	中部圏	全体	300	39.0	13.3	46.3	13.7	34.4	13.6	24.7	19.6	44.6	12.4	29.0	17.6	30.0	14.7	28.3	13.4	43.4	9.7	52.0	9.0	44.0	9.6	43.6	11.0	29.6	11.0	
		性別	男性	200	34.0	14.5	41.5	15.0	33.0	14.0	23.5	20.5	39.5	12.5	27.0	17.5	29.5	16.0	27.0	14.0	39.0	9.0	48.0	8.0	39.0	10.0	37.0	12.0	26.0	11.0
		性別	女性	100	49.0	11.0	56.0	11.0	37.0	13.0	27.0	18.0	55.0	12.0	33.0	18.0	31.0	12.0	31.0	12.0	52.0	11.0	60.0	11.0	54.0	9.0	57.0	9.0	37.0	11.0
		年代別	20代	85	61.2	10.6	55.3	12.9	42.4	11.8	28.2	16.5	56.5	8.3	41.2	9.4	29.4	14.1	29.4	14.1	51.8	7.1	58.9	7.1	54.1	5.9	52.9	4.7	37.6	7.1
		年代別	30代	161	33.6	14.3	44.1	14.3	33.5	12.5	22.3	18.7	42.9	13.1	24.8	20.5	30.5	14.9	27.4	13.7	42.8	10.0	52.8	8.7	43.4	9.9	43.4	12.4	29.8	11.8
		年代別	40代	54	20.4	14.8	38.9	13.0	24.1	20.4	26.0	27.8	31.5	16.7	22.2	22.3	29.7	14.9	29.7	11.2	31.5	13.0	38.9	13.0	29.6	14.8	29.7	16.7	16.7	14.9
2004年2月調査	関東圏	312	23.7	26.9	24.7	26.6	17.9	26.6	*	*	17.3	31.4	9.0	37.2	*	*	24.7	26.6	21.8	17.6	26.9	16.3	20.2	20.8	9.0	37.2	14.4	19.6		
	中部圏	310	31.3	20.6	44.9	16.7	27.7	20.3	*	*	43.2	13.2	28.8	14.2	*	*	44.9	16.7	40.6	9.6	43.9	11.6	35.5	13.2	28.8	14.2	29.4	10.9		

※ は全体より+10ポイント以上、 は全体より+5ポイント以上

※(2004年2月調査) * は未聴取

3. 【他地域からみた関西】（関西人とのギャップ）(7/7)

(6) 関東・中部の女性・若年層の関西への評価は総じて高い(その2)。

『関西』に対するイメージ(その2)

		サンプル数	関西の生活環境																				
			交通の便が良い		通勤時間が短い		病院などの医療設備が充実している		住環境が良い		生活費が安い		人々の他地域圏の文化や考え方に対して寛容な人が多い		地域住民の交流が活発だ		子供の教育環境が良い		治安が良い		生活マナーの良い人が多い		
			そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	
2006年12月調査	関東圏	全体	300	35.0	14.7	25.0	19.4	25.3	14.0	19.4	22.3	30.7	18.7	23.7	34.6	50.7	12.0	12.4	34.6	7.0	58.7	7.7	57.4
		性別 男性	200	32.5	15.5	23.5	21.0	24.0	15.5	16.0	22.0	28.0	18.5	20.5	34.5	46.5	13.5	8.5	39.5	4.0	62.0	6.0	58.5
		性別 女性	100	40.0	13.0	28.0	16.0	28.0	11.0	26.0	23.0	36.0	19.0	30.0	35.0	59.0	9.0	20.0	25.0	13.0	52.0	11.0	55.0
		年代別 20代	85	41.2	7.1	32.9	14.2	23.5	8.3	24.7	20.0	29.5	17.7	31.7	22.3	56.4	9.4	11.8	29.5	10.6	56.4	14.1	50.6
		年代別 30代	161	34.2	17.4	21.8	23.0	28.0	14.9	16.2	22.3	31.6	19.2	19.3	39.7	49.1	10.6	12.4	35.4	6.2	58.4	4.3	59.0
	年代別 40代	54	27.8	18.5	22.3	16.7	20.4	20.4	20.4	26.0	29.6	18.6	24.1	38.9	46.3	20.4	13.0	40.7	3.8	63.0	7.4	63.0	
	中部圏	全体	300	49.4	12.6	23.0	26.4	33.3	9.0	12.0	40.6	17.7	34.7	30.6	27.7	47.6	9.3	11.0	42.0	6.0	69.3	9.0	62.6
	性別 男性	200	45.5	13.5	21.5	25.0	29.5	7.5	12.5	37.0	16.5	33.5	30.0	28.5	44.5	9.0	10.5	40.5	4.5	66.5	7.0	60.5	
	性別 女性	100	57.0	11.0	26.0	29.0	41.0	12.0	11.0	48.0	20.0	37.0	32.0	26.0	54.0	10.0	12.0	45.0	9.0	75.0	13.0	67.0	
	年代別 20代	85	55.3	8.3	34.1	16.5	37.6	5.9	21.2	36.5	25.9	28.3	38.8	18.8	52.9	7.1	20.0	28.2	7.1	68.2	12.9	56.5	
	年代別 30代	161	50.4	14.3	19.9	32.9	35.4	8.7	8.7	44.1	13.7	39.1	27.9	32.3	46.6	8.0	8.0	47.8	5.0	73.3	8.0	69.0	
	年代別 40代	54	37.0	14.9	14.8	22.3	20.4	14.8	7.4	37.0	16.7	31.5	26.0	27.8	42.6	16.7	5.6	46.3	7.5	59.3	5.6	53.7	
2004年2月調査	関東圏	312	21.2	25.7	24.3	20.2	17.9	14.8	21.8	30.4	41.3	16.0	15.1	49.7	44.8	11.2	13.1	39.1	5.7	57.4	5.8	61.8	
	中部圏	310	48.7	14.2	14.8	37.1	31.9	9.0	11.9	50.6	16.8	42.2	21.6	43.2	47.8	11.3	7.1	43.9	1.6	73.2	3.2	70.0	

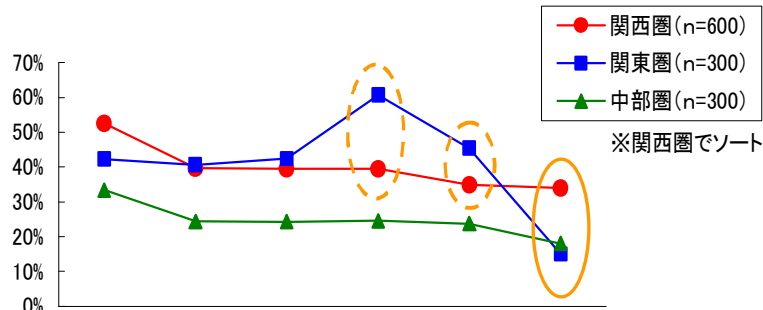
		サンプル数	関西の余暇環境																												
			手頃な価格でおいしいお店がある		関西ならではの食文化がある		レジャーやショッピングの環境が充実している		歴史や文化が違う都市が近くにあり、色々な文化が共存している		繁華街に活気がある		歴史的・文化的遺産に触れる機会が多い		気持ちの良い公園や散歩道が多い		音楽や芸術に触れる機会が多い		観光資源が豊富である		海・山・川などの自然が身近にある		大規模なスポーツイベント・大会が身近で開催される機会が多い		歌舞伎などの伝統芸能に触れる機会が多い		街の景観が美しい		障害者や高齢者にやさしい街である		
			そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	そう思う計	いそう思わない計	
2006年12月調査	関東圏	全体	300	72.3	4.7	75.7	4.0	40.7	8.3	53.7	5.3	68.6	5.0	61.7	7.7	32.3	12.0	28.3	16.0	58.7	6.6	40.6	13.4	29.0	16.6	24.0	21.3	40.6	15.7	14.0	22.3
		性別 男性	200	72.0	4.5	74.5	3.5	37.0	10.5	53.5	6.0	63.5	7.5	58.0	8.5	27.5	12.0	25.5	17.0	57.5	9.0	37.5	14.5	27.0	18.0	23.5	22.5	37.5	16.5	14.0	24.0
		性別 女性	100	73.0	5.0	78.0	5.0	48.0	4.0	54.0	4.0	79.0	-	69.0	6.0	42.0	12.0	34.0	14.0	61.0	2.0	47.0	11.0	33.0	14.0	25.0	19.0	47.0	14.0	14.0	19.0
		年代別 20代	85	69.4	5.9	74.1	3.5	43.5	7.1	45.9	1.2	71.7	1.2	60.0	5.9	32.9	10.6	30.6	8.3	53.0	3.6	41.1	11.8	24.7	8.3	29.5	11.8	45.9	11.8	16.5	15.3
		年代別 30代	161	72.7	3.7	76.4	4.4	36.6	8.1	55.9	6.2	66.5	6.9	61.5	8.7	31.7	12.4	28.0	16.2	60.8	7.5	38.5	13.7	32.3	16.7	24.8	20.5	39.7	16.8	10.5	25.4
	年代別 40代	54	75.9	5.6	75.9	3.7	48.1	11.1	59.2	9.3	70.4	5.6	64.8	7.4	33.4	13.0	26.0	27.8	61.2	9.3	46.3	14.8	25.9	29.6	13.0	38.9	35.2	18.6	20.4	24.1	
	中部圏	全体	300	75.4	2.7	80.7	3.0	57.3	5.0	55.3	5.3	72.7	3.3	60.0	7.3	31.7	18.3	46.0	9.0	61.0	6.0	29.3	24.0	53.0	7.3	46.6	8.6	36.0	20.0	12.0	27.6
	性別 男性	200	71.5	3.0	78.5	3.0	51.0	5.5	51.5	6.0	67.5	4.0	55.0	7.0	28.5	20.5	42.5	8.5	55.5	5.5	26.5	25.0	50.5	7.0	43.5	8.0	30.0	19.5	11.5	26.0	
	性別 女性	100	83.0	2.0	85.0	3.0	70.0	4.0	63.0	4.0	83.0	2.0	70.0	8.0	38.0	14.0	53.0	10.0	72.0	7.0	35.0	22.0	58.0	8.0	53.0	10.0	48.0	21.0	13.0	31.0	
	年代別 20代	85	75.3	2.4	81.2	3.5	65.9	3.6	56.5	3.5	76.5	1.2	62.3	7.1	43.5	11.8	49.4	7.1	64.7	3.5	36.4	22.4	55.3	5.9	55.3	5.9	45.9	14.1	21.1	18.9	
	年代別 30代	161	75.8	2.5	81.3	2.5	59.0	3.7	56.5	6.2	72.7	3.7	63.3	5.6	26.7	20.5	47.2	8.7	62.1	5.6	25.4	28.0	54.7	6.2	44.1	8.7	33.0	23.0	8.7	29.2	
	年代別 40代	54	74.1	3.7	77.8	3.8	38.9	11.1	50.0	5.6	66.7	5.6	46.3	13.0	27.8	22.2	37.1	13.0	51.9	11.1	29.7	14.8	44.5	13.0	40.8	13.0	29.7	20.4	7.5	37.1	
2004年2月調査	関東圏	312	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	28.9	16.0	22.1	19.5	*	*	*	*	18.2	20.5	17.9	28.5	*	*	*	*	
	中部圏	310	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	28.1	17.1	49.6	7.1	*	*	*	*	60.9	6.4	45.4	8.4	*	*	*	*	

※ は全体より+10ポイント以上、 は全体より+5ポイント以上
 ※(2004年2月調査) * は未聴取

4. 【女性の活躍】 — 関西の女性の主体性は高く、関東の女性のような活躍の場を創出できないか(1/2)

- 地元生活者の主体性は、関東と関西は総じて高いものの、「起業など新しい仕事へのチャレンジ」「地元や周囲のために女性が活躍」については、関東が際立って高い。
- 両地域とも女性が低い。中でも関東の女性の高さ（特に「起業など新しい仕事へのチャレンジ」が顕著。

【地元生活者の主体性】



TOP2 (非常に+まあ)	サンプル数	新しいことやものを考えたり、生み出すことが得意である	自分自身の夢や希望に向かって行動できる人が多い	夢や希望に向かって目標を持っている人が多い	起業などの新しい仕事にチャレンジしたいと思っている人が多い	地域や周囲の人のために女性が活躍している	地域の住民で自主的に新しい活動を進めるのが得意である
関西圏	600	52.5*	39.6*	39.5*	39.5*	34.9*	33.9*
関東圏	300	42.3	40.7	42.4	60.7	45.4	15.0
中部圏	300	33.4	24.4	24.3	24.6	23.7	18.0

※ 色付きはTOP項目

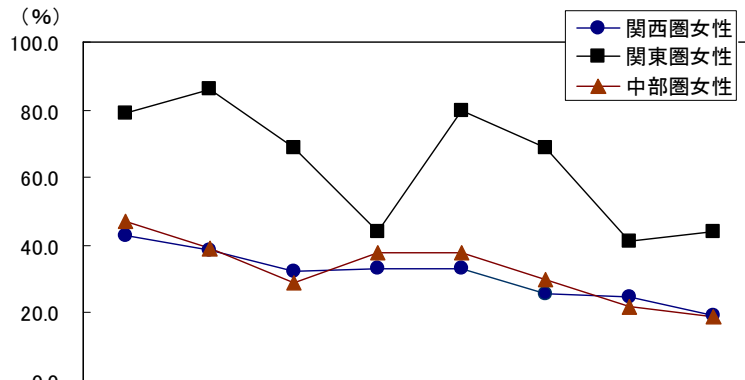
2006年12月調査	関西圏	性別	サンプル数	新しいことやものを考えたり、生み出すことが得意である	自分自身の夢や希望に向かって行動できる人が多い	夢や希望に向かって目標を持っている人が多い	起業などの新しい仕事にチャレンジしたいと思っている人が多い	地域や周囲の人のために女性が活躍している	地域の住民で自主的に新しい活動を進めるのが得意である								
				計当てはまる	な当てはまる	計当てはまる	な当てはまる	計当てはまる	な当てはまる	計当てはまる	な当てはまる						
				52.5	10.8	39.6	10.7	39.5	11.5	39.5	13.5	34.9	14.5	33.9	14.9		
2006年12月調査	関東圏	性別	全体	600	52.5	10.8	39.6	10.7	39.5	11.5	39.5	13.5	34.9	14.5	33.9	14.9	
			男性	400	49.0	11.5	37.5	11.0	37.1	11.8	36.0	14.8	30.8	14.8	32.6	16.0	
		女性	200	59.5	9.5	44.0	10.0	44.5	11.0	46.5	11.0	43.0	14.0	36.5	12.5		
		年代別	20代	170	50.0	10.6	47.1	8.3	42.4	9.4	39.4	13.0	38.9	14.2	38.2	10.0	
			30代	322	55.0	10.2	38.2	9.9	39.5	11.5	39.4	13.4	34.1	14.6	32.0	17.7	
			40代	108	49.1	12.9	32.4	16.7	35.2	14.8	39.9	14.8	30.6	14.9	32.5	13.9	
			全体	300	42.3	12.4	40.7	14.6	42.4	15.7	60.7	9.0	45.4	14.0	15.0	43.3	
		中部圏	性別	男性	200	37.0	14.0	33.5	16.0	35.5	17.0	55.0	10.0	40.5	14.0	11.5	43.0
				女性	100	53.0	9.0	55.0	12.0	56.0	13.0	72.0	7.0	55.0	14.0	22.0	44.0
			年代別	20代	85	55.3	11.8	50.6	15.3	54.1	11.8	65.9	5.9	51.7	13.0	15.3	36.5
				30代	161	39.1	13.6	39.8	14.9	43.5	17.3	62.1	9.9	41.6	14.9	17.4	46.0
				40代	54	31.5	9.3	27.8	13.0	20.4	16.7	48.1	11.1	46.3	13.0	7.4	46.3
全体	300			33.4	22.3	24.4	18.7	24.3	18.0	24.6	23.4	23.7	26.4	18.0	24.0		
性別	男性		200	36.0	20.5	26.0	17.5	26.0	17.0	25.0	24.5	23.5	23.5	18.5	24.0		
	女性		100	28.0	26.0	21.0	21.0	21.0	20.0	24.0	21.0	24.0	32.0	17.0	24.0		
	20代	85	42.4	16.5	38.8	15.3	37.6	16.5	32.9	15.3	24.7	23.5	24.7	14.1			
	30代	161	31.6	24.2	20.5	21.1	19.9	19.3	22.4	27.9	24.2	28.5	14.9	27.9			
40代	54	24.1	25.9	13.0	16.7	16.7	16.7	18.6	22.3	20.4	24.1	16.7	27.8				

※ 色付きは全体より+10ポイント以上、色付きは全体より+5ポイント以上

4. 【女性の活躍】－ 関西の女性の主体性は高く、関東の女性のような活躍の場を創出できないか(2/2)

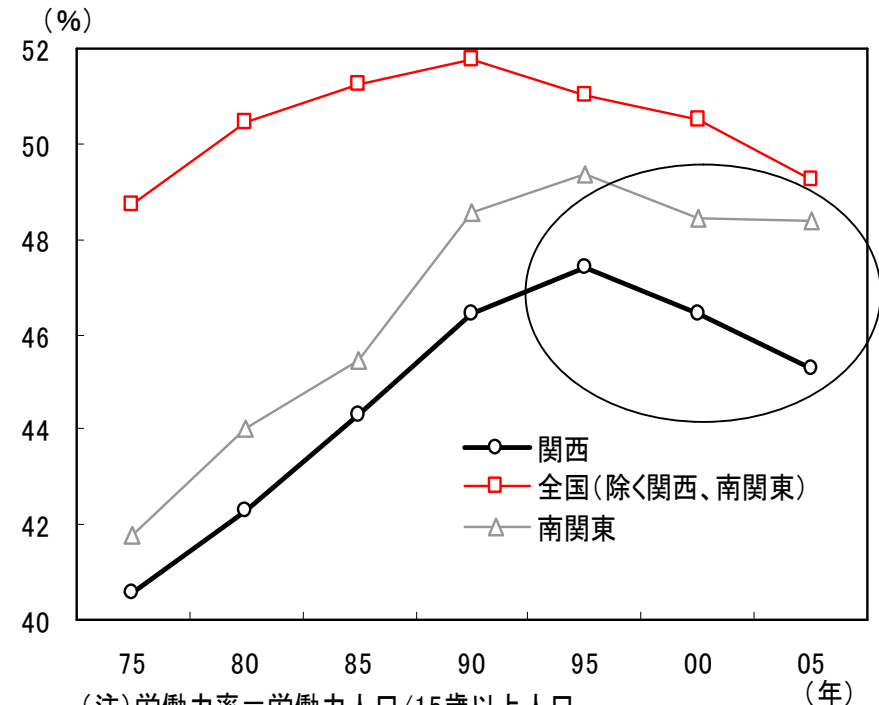
- 「地元企業への満足度」をみると、関東の女性の満足度の高さは際立つ。〈参考データ（右下図）〉
- 関西の女性労働力率は、全国と比べても低く、また、関東の女性労働力率の差は90年以降大きくなっている。

【女性の地元企業への満足度】(P15データより)



※5段階評価の「満足」「どちらかというと満足」の合計 (%)	サンプル数	をやりがいの多い仕事	の最新のビジネス情報	人材の質・層の暑さ	に（家賃を除く）生活水準	酒類の多さ	給与水準	の（アジア企業との）交流	業（アジア）の海外企業
関西圏女性	200	43.0	38.5	32.5	33.0	33.0	25.5	25.0	19.5
関東圏女性	100	79.0	86.0	69.0	44.0	80.0	69.0	41.0	44.0
中部圏女性	100	47.0	39.0	29.0	38.0	38.0	30.0	22.0	19.0

〈参考データ〉【女性労働力率の推移】



(注) 労働力率=労働力人口/15歳以上人口
 全国から関西、南関東を除いた数値を使用。

(資料) 総務省「労働力調査」より作成

5. 【まとめ】

○足元では、関西の景気は悪いと見る人がほぼ半数を占める。しかしながら関西の人には地域に貢献しようとする意欲が備わっており、自らが気づいていない強みや弱みに留意して地域活性化を図るべき。

- (1) 関西の現在及び将来（10年後）の景気認識は、関東・中部より悪い。この景気認識が「生活の幸福度」の理由（仕事環境への満足度）や「地元企業への満足度」の評価の足かせとなっている傾向が見られる。
- (2) 関西人は、地元への愛着が高く、また、地域に貢献したいという思いが強い。
- (3) 外部から見た「治安の悪さ」「怖い地域」「交通マナー」のマイナス面、「観光」や「食文化」に対するプラス面に、関西人は気づいていない。
- (4) 関西・関東は女性の主体性が男性より高い。特に、関東の女性の仕事環境への満足度が顕著に高い。

- 【1】景気は回復基調を取り戻したとはいえ、関西の生活者は未だその実感に乏しい。今こそ、企業には、その活性化を通じた地元へのさらなる貢献を期待したい。また、地元は企業をもっと呼び込めるような体制・インフラ作りを。
(ただ待っているだけでは企業は来ない)
- 【2】外部評価を真摯に受け止め、特に関西への評価の高い他地域の若年層や女性に対してマイナスイメージの払拭努力をすべき。
- 【3】関東の女性のように、関西の女性にもっと仕事関係でも活躍の場を。その主体性の高さを活かさないか。
- 【4】関西人には共感共生型「和力社会」志向する人が多く、関西人の協調資質や地元貢献意識の高さが地元活性化の鍵となる。今後高齢化時代を迎える中で、特に団塊世代による地域活性化への貢献を期待したい。また、他地域からみて地域間交流に対する期待も大きい。